

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」とは？

～学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」～

困ったら、基本に戻る！！



1 学習指導要領*¹で示している「見方・考え方」

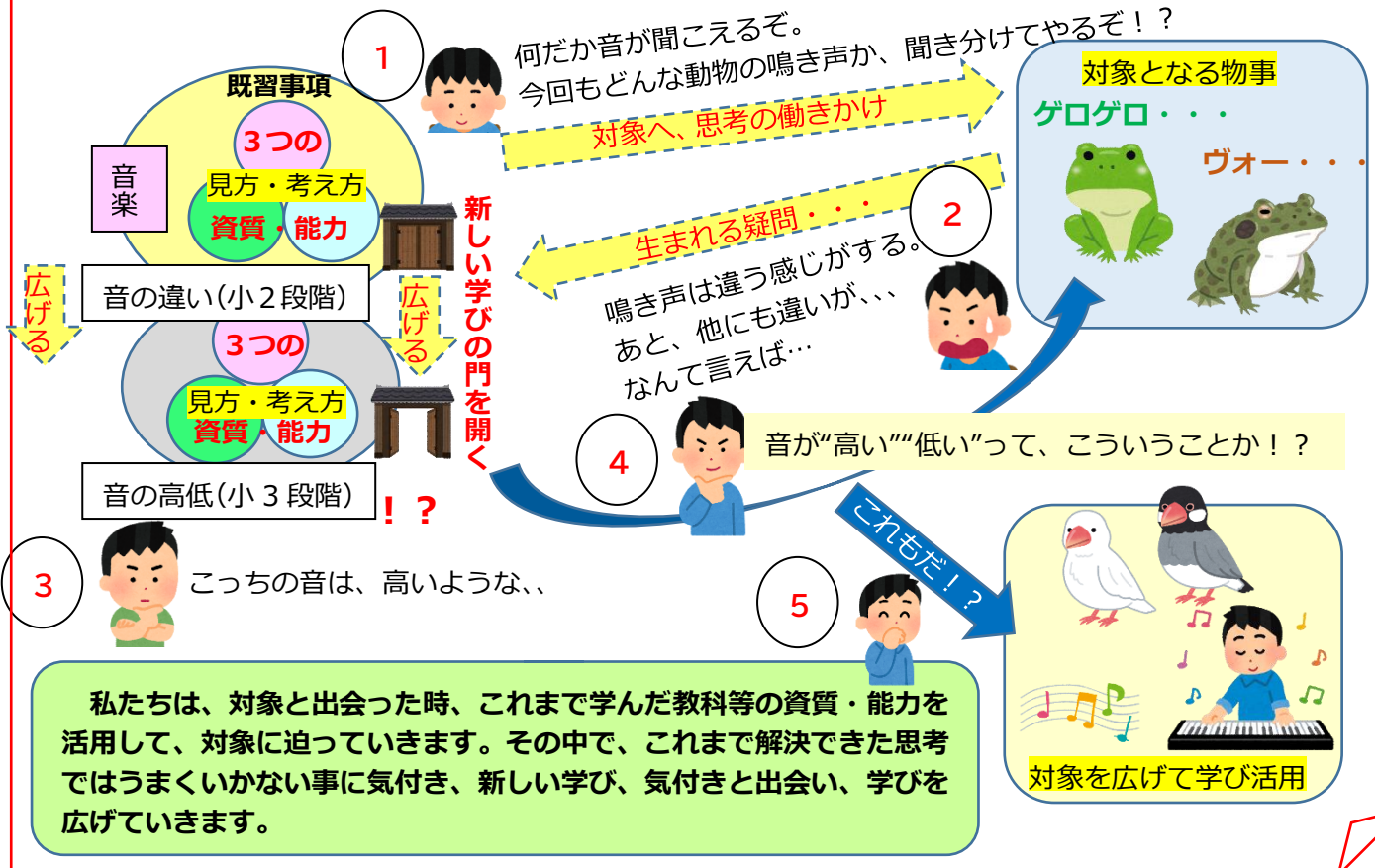
各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力、人間性等を発揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、児童又は生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

どう言うことなんだろう・・・？
私たちが言語能力を発揮する時です！

*1・引用：特別支援学校学習指導要領解説総則編（幼稚部・小学部・中学部）H30、P250
*下線部等は相馬支援学校編集者による

小学部の音楽の学びの例で考えてみると・・・

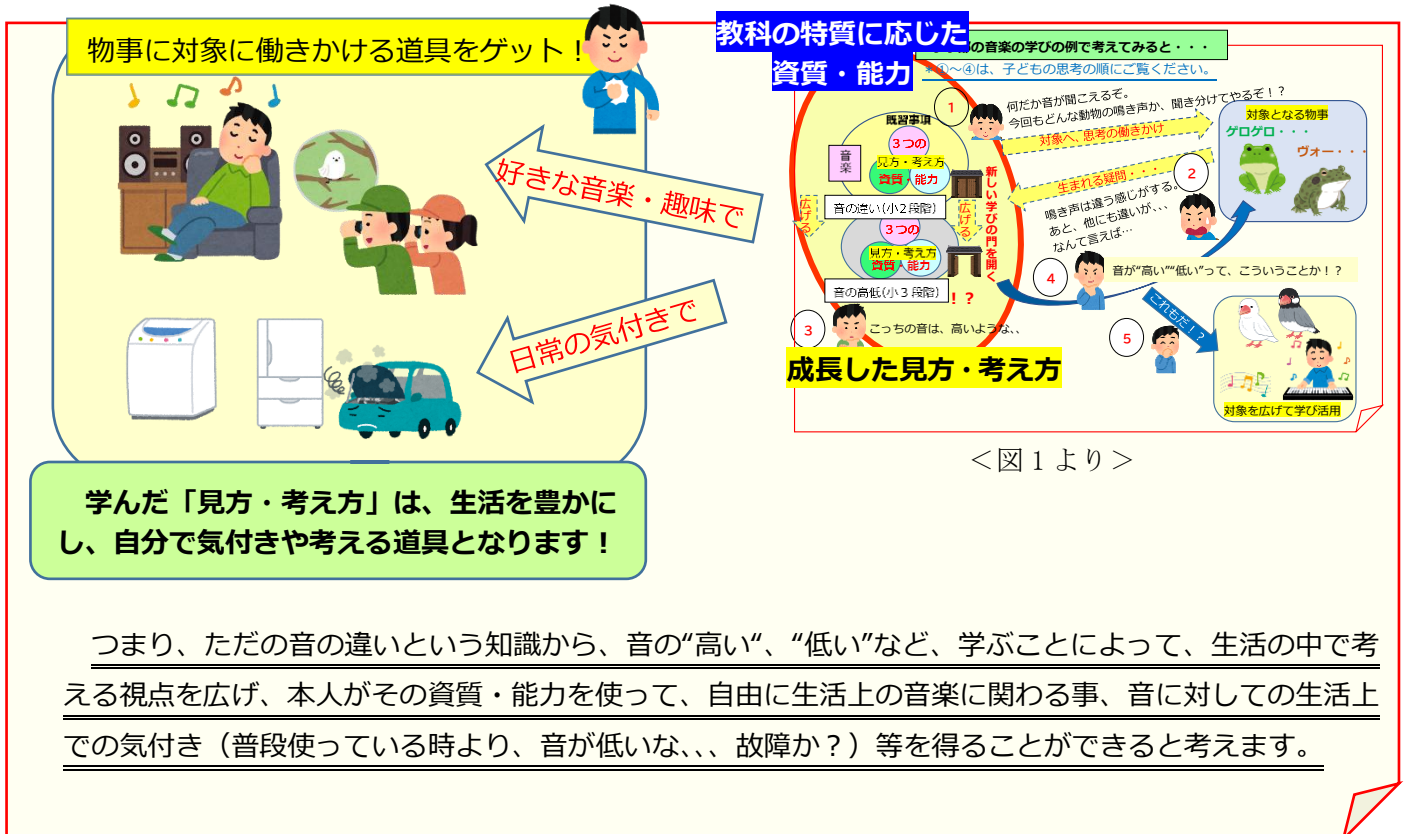
*①～④は、子どもの思考の順にご覧ください。



<図1 「見方・考え方」の学習指導要領から読み解く思考イメージ（音楽の例）>

まとめのポイント

特別支援学校学習指導要領総則等編解説（小・中学部）から読み取ると、図1のように示すことができると考えられ、「見方・考え方」を働かせて、新しい知識と結び付けて考えていくというように読み取れます。結果として、学習で得た新たな学びと既存の学びがつながり、広がり、新しい資質・能力が成長することになり、さらに、その資質・能力を使って対象物に対して豊かに思考して捉えることができるようになります。



つまり、ただの音の違いという知識から、音の“高い”、“低い”など、学ぶことによって、生活の中で考える視点を広げ、本人がその資質・能力を使って、自由に生活上の音楽に関わる事、音に対しての生活上での気付き（普段使っている時より、音が低いな...、故障か？）等を得ることができると考えます。

2 授業者側のポイント

特別支援学校学習指導要領総則等編解説（小・中学部）にある各教科の見方・考え方を示しているので、それを確認しましょう！それを踏まえた上で、次の2点を意識して、単元構想をしていきましょう。

- ① 児童生徒が、教師の指導したい教科の特質に応じた「見方・考え方」で、同じように対象物を捉えているか。捉えられるような発問や提示等をしているか。
- ② 児童生徒がこれまでの「見方・考え方」を働かせて対象と接し、思考したり、表現したりする時間を確保し、十分に浸りながら、新しい学びに自然とつながるような単元構成を考えられたか。

教科	見方・考え方	資質・能力
音楽	3つの見方・考え方 音の高低(小3段階) 音の速い(小2段階) 音の遅い(小2段階)	3つの資質・能力 新しい学びの門を開く 広がる
国語	3つの見方・考え方 音の高低(小3段階)	3つの資質・能力 新しい学びの門を開く 広がる
算数	3つの見方・考え方 音の高低(小3段階)	3つの資質・能力 新しい学びの門を開く 広がる
理科	3つの見方・考え方 音の高低(小3段階)	3つの資質・能力 新しい学びの門を開く 広がる
社会	3つの見方・考え方 音の高低(小3段階)	3つの資質・能力 新しい学びの門を開く 広がる
総合	3つの見方・考え方 音の高低(小3段階)	3つの資質・能力 新しい学びの門を開く 広がる

単元構想の時点で、どのような「見方・考え方」を働かせて対象に迫っていくのか、事前に考えておきましょう。その際、本校の単元案はシンプルで効果的です。

